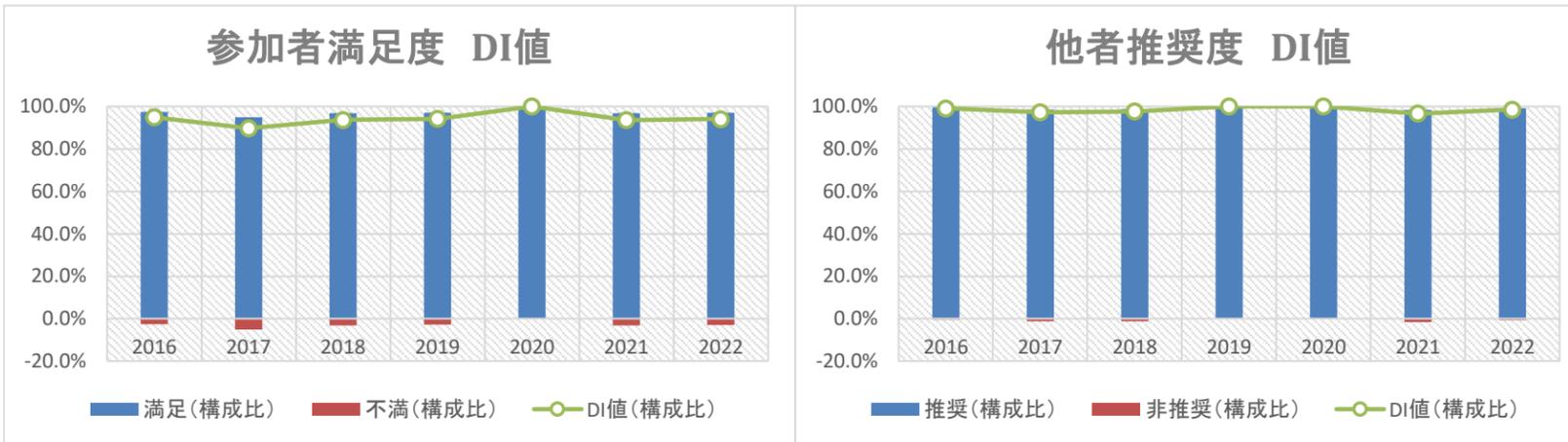


単位互換事業

<事業概要>

単位互換制度とは、他大学が提供する正規科目を履修し、その単位が自大学の単位として認定される制度です。大学コンソーシアム京都では、約50の大学・短期大学が一同に協定を締結し、制度を運営しており、日本最大の規模を誇ります。学生の探究心と幅広い知識を修得する意識の涵養のため、人文・社会・自然など各分野について、興味に応じて履修できるよう広く科目を提供しています。また、京都ならではの特色ある科目として、世界遺産を学びのフィールドとした「京都世界遺産PBL科目」、京都の文化施設を学びのフィールドにした「京都ミュージアムPBL科目」を開設し、多様な大学・学部の学生たちが共に学んでいます。



<参加者の声>

- 他大学の授業を大学生活中に学べるという機会はとても貴重なものだと感じています。他大学との交流はサークルや部活といった特定の中でのしか関わることは難しいと思いますが、このように単位互換制度を利用することで他大学の学生と関わり、仲良くなることができました。また、先生方との交流を深めるきっかけにもなり、新しい視点が生まれました。
- 習いたい授業は自分の大学にはほとんどないので、この制度は大学の多い京都で大学に通う身としてはとてもありがたい制度です。また、他の大学を知る機会にもなるととても面白いです。
- 少々、申込みフォーム(コンソーシアム京都のサイト)が煩雑でした。セキュリティとトレードオフなのは重々承知ですが、もう少し簡潔になると、コンソーシアム京都に参加するハードルが下がると感じます。

<参加者の声を受けて改善を図った点>

- 単位互換制度の根本的な魅力である「多種多様な数多くの科目を受講できる」点の訴求強化を図るため、WEBサイトや案内リーフレットの充実を図るなど、単位互換制度の情報発信に努めた。
- e京都ラーニングの保守更新期限にあわせて、新しい履修管理システム「単位互換・京カレッジポータルサイト」が本格稼働し、安定的な運用、利便性の向上に取り組んだ。今後もポータルサイト利用者の要望に応えるべく、改善に努める。

【総括】

単位互換制度を利用して自大学外の授業や学生または地域社会との出会いを得た学生からは、高い満足度が示された。他方、加盟校におけるカリキュラム充実や教育の質保証を図るための履修単位制限傾向、コロナ禍の影響もあり、受講者数はコロナ禍前(2019年度)と比較して減少している。今後、参加者数の回復と満足度維持に取り組むとともに、「京都世界遺産/京都ミュージアムPBL科目」等、大学コンソーシアム京都ならではの特色ある科目のさらなる開発・提供の促進を図る。

参加者満足度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
満足(名)	654	534	334	167	59	120	130
不満(名)	17	29	11	5	0	4	4
満足(構成比)	97.5%	94.8%	96.8%	97.1%	100.0%	96.8%	97.0%
不満(構成比)	-2.5%	-5.2%	-3.2%	-2.9%	0.0%	-3.2%	-3.0%
DI値(構成比)	94.9%	89.7%	93.6%	94.2%	100.0%	93.5%	94.0%
参加者数(名)	3,120	2,400	1,842	1,271	687	870	778

他者推奨度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
推奨(名)	644	508	333	157	58	115	131
非推奨(名)	3	7	4	0	0	2	1
推奨(構成比)	99.5%	98.6%	98.8%	100.0%	100.0%	98.3%	99.2%
非推奨(構成比)	-0.5%	-1.4%	-1.2%	0.0%	0.0%	-1.7%	-0.8%
DI値(構成比)	99.1%	97.3%	97.6%	100.0%	100.0%	96.6%	98.5%
参加者数(名)	3,120	2,400	1,842	1,271	687	870	778

※DI (Diffusion Index)値とは

「良い/悪い」「上昇/下落」といった定性的な指標を数値化して、単一の値に集約する加工統計手法のこと。または、この方法によって得られた指数をいう。DIは、時系列データであれば値の増加(プラス)/減少(マイナス)、サーベイデータ(アンケートなど)であれば回答を良い/悪いなどの属性に分類し、その属性の個数を集計して全系列数に占める割合などから算出する。

<http://www.itmedia.co.jp/im/articles/0707/09/news108.html>